

(仮称)大玉村子育て支援センター基本構想(案)に関する

パブリックコメント結果公表

(仮称)大玉村子育て支援センター基本構想は、子育て世代の新たな交流の場として、また、大山公民館の代替となる生涯学習活動や地域コミュニティの拠点としての施設整備に向けた計画です。このたび、本計画の素案がまとまりましたので、計画(案)についてご意見を募集しました。

本計画(案)に対する村民の皆様からお寄せいただきましたご意見及びそれに対する村の考え方について取りまとめましたのでお知らせいたします。

貴重なご意見等をたまわり誠にありがとうございました。

1 意見公募の実施状況

- (1) 募集期間 令和5年3月7日(火)から令和5年3月21日(火)
- (2) 公表方法 大玉村役場政策推進課及び大山公民館での閲覧、村ホームページへの掲載
- (3) 提出方法 直接持参、郵送、ファクシミリ、電子メール

2 提出意見数

- (1) 直接持参によるもの 1通
- (2) 郵送によるもの 0通
- (3) ファクシミリによるもの 0通
- (4) 電子メールによるもの 0通

3 お問い合わせ先

〒969-1392 大玉村玉井字星内70番地

大玉村役場総務部政策推進課企画係

電話：0243-24-8136

ファクシミリ：0243-48-3137

E-mail seisakusuishinka@vill.otama.fukushima.jp

(仮称)大玉村子育て支援センター基本構想(案)パブリックコメントの実施結果について

1. 募集期間：令和5年3月7日～3月21日
2. 提出意見：1通（14件）
3. お寄せいただいたご意見の概要とそれに対する村の考え方

No.	ご意見の概要	件数	村の考え方
1	2. 7 風除室（入口）からの入り方として、スリッパ使用か、土足のままか、下足置き場も必要ではないのか。入口から斜めに視線を作るにはムリがある。各部屋にムダな部分（三角形）が発生する。	1 (14)	基本的に土足ですが、子育てサロンは子どもたちが体全体を使って遊べるように靴を脱いで使用します。斜めの視線の中には各部屋の様子、館内で時間を過ごす人たちの様子が一目で確認でき、お気に入りの居場所を見つけやすくなるといった考えから設計しています。また、その先は中二階へと続いており、安達太良山を望むことができる図書ラウンジを配置しています。
	受付事務室：出入口の隣にあるべき。		子育てサロンの受付と背中合わせにすると、少ない職員数でも管理しやすくなるため、再度検討していきます。
	広場：何のためか不明。ムダな広さがある。その分子育てサロンを広く、各部屋を効率的に配置すべき。		用途の決まった各部屋を廊下で結ぶ計画が一般的ですが、廊下は移動のための空間となりがちです。そこを広がりのある広場に置き換えると、少人数でも多様な使い方ができる場所があちこちに生まれるという考えから設計しています。ワークショップにおいて数多く提案されたイベントなど様々な活動を行える場所になるように整備します。

	<p>ワークブース：子どもたちの放課後の居場所になりやすいとの記述があるが、小学生は1時帰宅するので、そこからは来ないと思われる。</p>	<p>この施設は公民館と子育て支援施設の複合施設です。大人も子供も、いつでも自由に使えるいろんな場所を数多く設けたいと考えており、屋内外の遊び場や学習・図書スペース等を整備することで、子供たちの放課後の居場所となることを期待しています。</p>
	<p>カフェ：必要性がないのでいらない。本宮のエポカを参考としているだけである。</p>	<p>本施設の検討に際して行ったワークショップやアンケート調査にて、相当数の要望をいただいたため計画しております。</p>
	<p>子育てサロン：子育て支援とするならば行政はどう支援するのか。それとも単なる子育て交流施設なのかが不明。誰がメインとなり運営していくのかがわからない。床暖か。どれくらいの利用者を見込むものか。何を配置するのが不明。実際に運用する団体の意見を取り入れているものか。</p>	<p>子育て世代の保護者や子どもたちが一日中過ごすことができ、同じようにここに来る様々な方々との自然な交流が生まれる場所にしたいと考えています。遊び場、相談室等を設けますが、遊具の詳細や運営方法については次年度計画していく予定としております。 ※広場、図書ラウンジなどのオープンスペースは床下からの冷暖房とし、間仕切られた各室は天井エアコンを設置します。</p>
	<p>会議室：卓球をやるにしても床材は軽運動に適したものか。</p>	<p>軽運動対応の床構造を予定しています。</p>
	<p>調理室：広場との仕切を開放し一体的な使い方もできるとしているが、構造上そうはなっていない。厨房機器3セットとあるが、現在は4セットを使用している。</p>	<p>「広場との仕切を開放し一体的な使い方もできる」は、調理されたものを広場などで試食できる使い方を想定しています。厨房機器の数や配置など、保健所とも打合せをしながら、次年度以降に詳細を決定していきます。</p>

	<p>階段：そのものの必要性を感じない。逆に転んで怪我をする率が高い。平らとすべきである。気軽に階段に座り、本を取って読むことができる、との記述があるがその必要性がないし、靴で歩くところへは座らない。</p>		<p>階段を上り、高いところから安達太良山を眺めながら本を読める場所をつくります。上の階は落ち着いた雰囲気の間とし、高さを変えることで生まれる多様な居場所となることを想定しています。階段に座る際は、備付けのクッション系マットを敷いて座ることも可能とします。また、段差を利用して収納や機械置場を設けます。</p>
	<p>図書ラウンジ：高いところへ作る必要性がない。床暖は！5000冊の蔵書となれば閉架室が必要。</p>		<p>基本的に1階部分を活動的な使い方、中2階部分を比較的落ち着いた使い方を想定しています。静かに本を読めるスペースを主に中2階に、ブラウジング的な読書コーナーとして階段脇などを想定しました。約5000冊の蔵書を収蔵可能ですが、本はできるだけ人々の目に触れるところに置き、関心を持ち手に取っていただくことを主眼と考えています。</p>
	<p>和室：健康体操の利用について、原則和室であり16帖では狭すぎる。ワークスペース3とひとつにしての和室とすべきである。現在は52帖を使用している。また、親の帰りを待つ子供たちの放課後の居場所との記述があるが小学生は1時帰宅するので、そこからは来ないと思われる。</p>		<p>和室とワークスペース3は一続きとなるように計画しています。</p>

	<p>ワークスペース2：仕切りを開放しラウンジの一部として機能する、との必要性はない。</p>	<p>各地の図書館と同じように、試験勉強のために図書館を利用するような使い方も想定し、自由に入れるようにガラスの間仕切りを開けておきます。授業の延長でグループ学習として友人と利用したり、ギャラリーとして小さな個展を開いたり、読書週間としてあるテーマに絞った本を集めて閲覧できるようにするなど、図書ラウンジと関連した使い方を想定しています。</p> <p>「使用されていない部屋も有効的に使える方が良い」とワークショップで意見を頂いており、使われていない部屋をフリースペースとして開放することで建物全体を有効的に活用します。</p>
	<p>その他：展示室、物置、収納室、資材倉庫、更衣室、ロッカー室、休憩室がない。現在、利用している団体が利用しやすいか、その面積が確保されているかが第一ではないのか。</p> <p>入口からの安達太良山の眺望がメインとなってしまうと、本来の施設の役割と有効性がどこかへ行ってしまっている。広場をなくして廊下とし、その分子育てサロンや各部屋を大きくして使い勝手の良いものとしてもらいたい。</p>	<p>左記の室を全て表記できておりませんが、各室の大きさや機能等は今後のより詳細な実施設計にて検討を進めることとなります。</p> <p>上記回答に左記の回答を含めています。</p>